予期せぬ感想の数に、(@_@)！

学校に依頼していた試験の答案用紙が、届いた。

なんと２割近い数の学生が、全く予期しなかった授業の感想を、余白に自主的に書き込みしてくれていたのには、(@_@)！

私の作った問題が易し過ぎて、時間が余ったかな？それにしても、わざわざ書いてくれたことは、やはり(^_^;)

そのいくつかを、転記（抜粋）させていただきまぁ～す。

・先生が授業で「プロは自らを検証する勇気を持たなくてはならない」とおっしゃった時、この世界の厳しさを改めて考えました。これまでの、そして今現在の先生の姿勢は、いつも患者さんの目線、ご家族の目線で考えようとしていたことが授業を通じて感じられました。とっても先生のようにきめ細かく、とはできないかもしれませんが、これから先、プロとしてどうありたいかを時々立ち止まりながら仕事をしていきたいと思います。“よりそう”ことが一番大事で、一番難しいことだということも感じました。しかし、この道を選んだ人間として自分を主張するのではなく、受け入れることを学んでいかなければならないと思いました。これからも、何かの折には先生にご助言をいただきたいと思います。宜しくお願い致します。授業して頂き、ありがとうございました。

・先生の授業を受講して、人としての感じ方、考え方を改めて考えました。特に、障害のある子の親（特に母親）と関わるということがどういうことなのか、ということを深く考える時間でした。テストの前に先生の教科書を読んだのですが、すごく考えることが多かったです。これからもホームページをのぞかせていただきます。ありがとうございました。

・自分は将来、障害児と係わっていきたいと考えています。そんな折、ご縁があって先生と出会うことが出来ました。先生から教えて頂いた事を心に刻みこんで、これからがんばっていく所存であります。プロになったら先生とメル友になって、「先生の経験ある考え方」をもっともっと学びたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。そして、ありがとうございました。心に残したい言葉「Ｎｏｔ　Ｄｏｉｎｇ，Ｂｕｔ　Ｂｅｉｎｇ．」

・授業の中で、行動とは何か、コミュニケーションとは何かを根本から捉え直すことができ、関わり方（どのように信号を受けとるか）について、自分なりに整理がついたように思います。本当にありがとうございました。

（2006 年 6 月 8 日　記）